

完成した営農型太陽光発電施設で記念植樹する丸林社長(左)と佐藤社長



### 営農型太陽光発電施設が完成

サカキ生産・販売の「彩の榊」を産する国産サカキを生産・販売する「彩の榊(さいのさかき)」(本社・東京都、佐藤幸次社長)は、太陽光発電と農業を両立させた営農型太陽光発電施設をいわき市山玉町に整備した。二日、完成記念セレモニーが行われた。

同社と、太陽光発電の設計や管理などを手掛けるアースコム(本社・埼玉県、丸林信宏社長)が開発する「ミ

ライ型農業プロジェクト」の初の施設。約六百平方メートルの耕作放棄地に地上約二・六メートルの高さの太陽光パネル約二百枚を設置し、その下で約二百七十株のサカキを育てる。年間発電量は七万五千六百五十九キロワットで、東北電力に売却する。

サカキの栽培は地域の福祉施設などの利用者や担い手、三年後の収穫を予定している。東日本大震災と東京電力



研究成果を出そうと意気込む会津学鳳高の佐藤さん(右)ら

種が確認されている。双葉層群の年代は約八千六百万〜九千万年前とされる。産出されるアンモナイトの化石が年代を示す主な指標とされてきた。有孔虫の種類を特定することで、その裏付けにつながるかと期待している。

今回の連携は、生徒の要望で実現した。佐藤太さん(二年)は「昔の地球環境に興味

### 相馬双葉漁協 本格移行期間で初出漁

相馬双葉漁協の今季のホッキ貝漁が今解禁され、二日から漁が始まった。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後に試験操業で再開されたホッキ貝漁は今年で六年目。今年四月に試験操業から本格操業への移行期間に入ってから初の出漁となった。漁期は来年度一月までで、週二〜三回操業する。

相馬沖のホッキ貝は大きな身と強い甘味が特徴。この日は相馬市の磯部、新地町の釣師浜、南相馬市の真野川、浪江町の請戸の各漁港から計七隻が出港した。磯部漁港には午前九時すぎに二隻が戻



磯部漁港ホッキ貝

### 書家・遠藤昌弘さん(白河出身)

「表現さらに深めたい」



日本有数の書の団体「寄鶴文社」が主催する展覧会で最高賞を受けた遠藤さん

### 寄鶴文社展で最高賞

日展会友で県在京美術展覧会・寄鶴文社展で最家協会員の書家遠藤昌弘 高賞の「寄鶴文社大賞」さん(六二)白河出身、に輝いた。文化勲章受章東京都在任は、書道の者で日本芸術院会員だっ

龍 麟 嶺 雨 曉 松  
 寄 鶴 文 社 展 最 高 賞 書 作 品

### 木戸川に若アユ遡 櫓葉 11年ぶり釣り解禁

東京電力福島第一原発事故でかつて避難区

